

ロードカナロア

48,297票



2013年 高松宮記念 (GI)

日本と香港で無双した短距離王

JRA賞最優秀短距離馬を2度受賞、2013年には年度代表馬に輝いたロードカナロアが真の強さを発揮したのは、4歳(12年)の秋以降だった。

2歳終わりに新馬勝ちを飾り、2勝目は3歳春。そこから葵S、京洛S、そして重賞の京阪杯、シルクロードSと連勝するも、4歳春、GI初挑戦の高松宮記念で3着。以降も函館スプリントS、セントウルSと僅差の2着が続いた。

最初のタイトルは4歳秋のスプリンターズS。ここでGI初制覇を飾ると、その年の暮れには香港スプリントも勝利。短距離王国と呼ばれるほど世界的に見てもハイレベルだった香港のスプリント路線の頂点を日本馬が制するのは、史上初の快挙だった。

しかし本当に驚かされるのは翌年、5歳を迎えた2013年だった。

始動戦の阪急杯を勝利して迎えたのは、前年敗れている高松宮記念。中団からレースを進めたロードカナロアは直線で一気に伸びる

と、逃げ粘るハクサンムーンを瞬く間に交わし、ドリームバレンチノの追い込みも完璧に抑えて1馬身1/4差で勝利してみせた。

続く安田記念も、1600mの距離を見事に克服して優勝。秋初戦のセントウルS2着から臨んだスプリンターズSでは、サクラバクシンオー以来19年ぶりの連覇とともに、史上4頭目の同一年春秋スプリントGI制覇の偉業を達成。そして迎えたラストランの香港スプリントでは、同レース史上最大となる驚異の5馬身差圧勝で連覇を飾り、世界中のホースマンに衝撃を与えたのだった。

2018年には顕彰馬に選定されたロードカナロアは、現役引退後は種牡馬としても活躍。初年度産駒のアーモンドアイをはじめサトウチンチン、パンサラッサなどGI馬を輩出し、高松宮記念でも21年にダノンスマッシュ、23年にファストフォースが父子制覇を達成するなど、大きな成功を収めている。

第43回 高松宮記念 (GI)

2013年3月24日 中京競馬場 1200m(芝・左) 晴・良 17頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	ロードカナロア	牡5	57	岩田 康誠	安田 隆行	R1:08.1	①	⑨⑦
2	ドリームバレンチノ	牡6	57	松山 弘平	加用 正	1 1/4	②	⑫⑪
3	ハクサンムーン	牡4	57	酒井 学	西園 正都	ハナ	⑩	⑪①
4	サクラゴスペル	牡5	57	横山 典弘	尾関 知人	1/2	④	④④
5	ダッシュアゴゴ	牡6	57	川田 将雅	安田 隆行	1/2	⑥	⑦⑦

ロードカナロア Lord Kanaloa

2008年3月11日生 牡 鹿毛

父:キングカメハメハ 母:レディブラッサム 母の父:Storm Cat
生産:新ひだか・ケイアイファーム 馬主:(株)ロードホースクラブ
通算成績:19戦13勝(うち海外2戦2勝)

主な勝ち鞍

- 2013年 香港スプリント(G1)、スプリンターズS(G1)、安田記念(GI)、高松宮記念(GI)、阪急杯(GIII)
- 2012年 香港スプリント(G1)、スプリンターズS(G1)、シルクロードS(GIII)
- 2011年 京阪杯(GIII)



2013年スプリンターズS(GI)

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
1位:ロードカナロア(48,297票)

2^位 **キングヘイロー** 41,547票



2000年の優勝馬。父が凱旋門賞馬、母はケンタッキーオークス馬という世界的良血馬が、GI挑戦11度目にしてついに果たした戴冠であった。

3^位 **カレンチャン** 18,876票



2012年の優勝馬。サンカルロ、ロードカナロアら強豪を抑えて勝利し、前年のスプリンターズSに続く短距離GI勝利を飾った。

4^位 **フラワーパーク** 14,397票



スプリントGIとなって初の本競走(1996年。当時は高松宮杯)を制した、初代・中京短距離女王。同年のスプリンターズSも制している。

5^位 **キンシャサノキセキ** 12,714票



阪神開催となった2011年の高松宮記念にレース史上最高齢となる8歳で優勝。前年(10年)に中京開催の本競走も制しており、唯一の連覇ホース。



特設サイト